



対談

ぐんぴい
(春とヒコーキ)

水野太貴
(ゆる言語学ラジオ)

落語家と塾講師

——二人が目指す「しゃべりの理想形」

『バキ童チャンネル』と『ゆる言語学ラジオ』、
ともに超人気YouTubeチャンネルを持ちながら、
音声メディアでも発信しているぐんぴいさんと水野太貴さん。
それぞれが目指す「しゃべりの理想形」、
ラジオ的なものとポッドキャスト的なものの違いとは？
初の対談でたっぷりと語ってもらった。

YouTubeは
面白すぎではないけな！

——お二人ともYouTubeを開始された時期がほぼ同じで、今では音声メディアでも発信されていて、活動の形がシンクロしているように思います。

水野 『ゆる言語学ラジオ』は2021年3月からです。

ぐんぴい 『バキ童チャンネル』は2020年の11月。たしかに近いですね！

——奇跡的にネタが被ったこともありましたね。

水野 「キモいオノマトペ」とかでですね。

ぐんぴい あーっ！ あったなそれ。

水野 不自然なオノマトペの文を作って、オノマトペの文法的な本質に迫る回があったんですが、一日違いでバキ童チャンネルでもオノマトペがテーマの回が出て、いろんな人に意図を訊かれましたね。

——「ゲリラ的にオノマトペをバズらせよう！」って、両者が裏で画策したんじゃないのかと。

水野 偶然の被りでしたが、嬉しかったですね。ぐんぴい オノマトペはやっぱ面白いですね。

水野 他にも、『ゆるコンピュータ科学ラジオ』

の「ジョークを途中で聞いてオチを当てる」というクイズも被って。ぼくと相方の堀元さんは小学生のころに世界のジョーク本を読みまくっていたんですね。

ぐんぴい ジョーク本、ぼくも読んでましたよ。ちなみに、水野さんは本で学んだジョークはどこかで披露してたんですか？

水野 披露はしてないですね。

ぐんぴい やってたらすごい痛いやつですからね。

水野 危なかった！

ぐんぴい ぼくはやってましたね。中学生ぐらいかな。

水野 手応えは？

ぐんぴい なかったですね……本当にウケなくて、本のせいにしてました。

水野 なんてことを(笑)。

——ネタが被るほど興味の方向が似ているお二人ですが、それぞれどういう印象をお持ちですか？

ぐんぴい ゆる言語学ラジオは面白すぎるんだ、なるだけ近寄らないようにしようって感じてましたね。企画が被っても、絶対向こうの方が面白いんで。

水野 いやいやいや。ぼくらはむしろ逆で、演

者力では絶対に敵わなから、リサーチや企画で勝たなきゃいけないって思っていましたね。

——いわばライバル視していた？

水野 そうですね。でも、「倒す」という感覚ではなくて、どちらかというと一緒に伸びていて、視聴者を交換し合えればいいなと思っています。バキ童チャンネルはぼくらの4倍の登録者がいるので、その一部を小判ザメのように拾わせてもらってますね。

ぐんぴい ぼくらは面白すぎないから登録者が多いんですよ。ゆる言語学ラジオは面白すぎる。YouTubeは面白すぎると伸びない。これは本当です。

水野 おお。その理論、聞きたいです。

ぐんぴい 面白すぎると見る人を選ぶんです。ゆる言語学ラジオの方は奥深い面白さがあるけど、バキ童チャンネルにその深さはない。YouTubeは流し見で見える程度の面白さが一番伸びる傾向にあります。ゆる言語学ラジオは流し見しづらいほど内容が濃いですね。

水野 なるほど。では、「面白くしすぎたものはネタライブとかで見せるんでしょうか？

ぐんぴい そうですね。バキ童チャンネルはその点で「いかに手を抜くか」をやってますね。

水野 ぼくらが手を抜いたら普通に視聴者が減

いの続きは本誌でどうぞ！